

会議録 (グループホームうみかわ 運営推進会議)

作成日 令和5年1月27日

期 日	令和5年1月23日(月)	時 間	14:00~15:30
場 所	西海地区公民館 研修室		
参加者 (6名)	利用者・家族	0名(利用者)	0名(家族)
	地域代表者	1名	
	市職員	2名	
	包括職員	1名	
	法人役員	1名	
	施設職員	1名	

会議要旨

議 題 (テーマ)	① 入居者様の状況について
	② 前回、運営推進会議からの動きについて
	③ 意見交換
	④ その他
	<p>① 入居者様の状況について</p> <p>◇退去者 1名(看取りケア) ◇新入居者 1名</p> <p>・介護度1の方、5名 ・介護度2の方、5名 ・介護度3の方、4名 ・介護度4の方、2名 ・介護度5の方、2名 (計18名) 平均介護度2.5(※前回2.4) 平均年齢 86.6歳</p> <p>◇事故報告 (なし)</p> <p>◇インシデント=重大な事故につながる可能性のあるケース(2件) ・転倒 2件</p> <p>② 前回、運営推進会議からの動きについて</p> <p>(1) 12月 1日 市内の感染状況より面会制限を再開 (2) 12月 14日 糸魚川総合病院にて入退院時の情報共有についての説明会 (グループホーム管理者対象)に参加</p> <p>(その他) ・うみかわ便り(12月号、新年号を家族へ配布) ・誕生会を各入居者の誕生日に合わせて開催 ・行事食(誕生会、クリスマス会、忘年会、新年会 等) ・12月より早朝の除雪については地元業者職員と契約しているが、日中の除雪要因の担い手がおらず、契約に至っていない状況。積雪状況を見て職員にて対応する予定。 ・新型コロナウイルス関連 ◎11~12月にかけて職員3名が陽性、同居家族が陽性1名の報告があり、基準に基づいて出勤停止となっているが、入居者様への感染や、施設運営への支障はない。 ・あったカフェにてについては11月~1月にかけて活動は行っていない。</p>

・ご意見・ご質問

(施設職員) コロナ禍に置いて、グループホームのケア内容についても単調になりがちな面がありますが、職員の皆さんの工夫もあり、入居者の皆さんの笑顔につながるケアに繋がっていると思います。

その状況下で、自分たちの関わりや施設としての役割について、戸惑う声も聴かれています。

【グループホームのメリット】

- ◇認知症ケアに特化した職員が支援してくれ安心
- ◇認知症の進行をやわらげる効果が期待できる
- ◇住み慣れた地域や、家庭的な環境の中で生活が出来る
- ◇市区町村で体制に関する基準が明確に定められているので安心

【グループホームのデメリット】

- ◇施設と同一の市区町村の住民票があり、介護保険の「要支援 2 以上」の認定が必要
- ◇施設に看護師の配置義務がないため医療ケア対応に限界がある
- ◇定員数が少ないため満室が多く、即入居がむずかしい
- ◇少人数なのでほかの入居者と相性が合わない場合調整が難しい

グループホームうみかわでは、現状、医療関係者との連携がしっかりととれている印象もあり、体調管理や看取りケアについて、以前よりも不安感が少なく対応は出来ている。半面、入居者の利用期間が延びてきており、新規入居希望者へのニーズに答えにくい状況ともいえる。現在、入居されている方や、そのご家族には安心して利用していただけていると思いますが、地域のグループホームの役割への期待について、どう受け止めて今後の施設運営を行っていくか、職員の中でもいろいろな考えが聴かれています。

(出席者) 介護度 3 になってやっと特養に申請できると思う方もいれば、居心地の良いケアをしてきている、現在のグループホームを動きたくないと希望される方それぞれでしょうが、国民年金だけという方も多い地域だと思いますので、家族の負担がどこまでできるのかということもありませんよね。

(出席者) もしも、グループホームの方針として、寝たきりになったり、看取りになったら特養へという流れがシステム化になってしまったら、慣れた環境や、信頼していた職員さんと離れてしまう面で感情的につらい。家族としては慣れた環境で最後までみてもらうことが幸せだと思うので、選択肢があつていいと思います。
たしかに、入居を待っておられる方の事を考えると、いろいろな思いは出てくるとは思います。

(施設職員) 相談に関しては、昨年の秋頃より、申込者関係からの連絡が増えています。緊急性のないケースもありますが、ストレスや介護への限界が近い印象の相談もありますので、多少の提案や、ケアマネと情報共有する程度しか力になれず、心苦しさは感じています。

(施設職員) 当グループホームから特養等に移るケースについては、コスト関係からのケースが多いです。その他の方は介護度が重度化しても、慣れた環境で、対応可能な範囲で現状維持を希望される意向が多いですので、当グループホームでは、入居期間が長い傾向にあり、新規の方への配慮が難しい状況ともいえます。職員としては、選んでいただけることは大変嬉しいことではある面もあるため、どちらが正しいのかとは言えませんが、施設単体でなく、地域の福祉サービス全体で支援を検討していくことが必要だと感じています。

(出席者) 私の身内がグループホームうみかわさんで看取っていただきました。本人は自分の家への思いが強かったので、本人の想いに反して、無理を言って施設にお願いした経緯もるので、コロナ禍でなかなか会えない中、「どうしているのかな」と思うこともありましたが、看取り時には、緩和対応から、毎日でも訪問してくれてよいとお話をもらい、関わりを多く持つことができ、本当によかったと思います。本人が亡くなったと、施設でのアルバム写真を見させていただいたのですが、ずっと「悪いことをしたかな」と感じていた気持ちもあったのですが、とても良い表情で写っている本人の顔を見て、グループホームうみかわさんで最後までみてもらって本当に良かったと思えました。

(出席者) 看取りに関しての意向もそれぞれですが、最期は点滴がどこまで入るかという面で、本人にとっても負担になるケースも多いですから、家族もそこまでは望まない声も多いですよ。痛み関係に伴う看取りでは、施設での対応にも限界がありますよね。

(出席者) 身体が亡くなる準備をしているのに、点滴をいれるのは負担になるという考え方は分かるのですが、やはり心情的には…。看取りって難しいですよ。

(出席者) グループホーム入居後に、一年に一度とかに、特養への移動の意向確認するケースとかはあるのですか？

(施設職員) 介護保険の更新にあわせて、ケアプランの見直しを行うのですが、その際に介護度が悪化した場合に、選択肢の一つとして必要な方には確認しています。

(出席者) 他のグループホームさんで値上げをされたところもありますが、グループホームではなく包括に相談されてくる方も数件ありました。包括では対応できない案件ですが、確かに家計的にも苦しいでしょうが、家での対応もできないという状況では厳しいですね。グループホームは認知症の方にとってはよい環境だと思いますが、費用が高いですよ。入居した当初はよくても、家庭の状況も変わるのでしょうから、経済的に不安に感じる面はあると思いますので、そのような面への確認や配慮も必要だと思います。

(施設職員) ご家族的にも相談しにくい内容かと思いますが、過去に相談を受けたケースは数件あります。特養へつなげたり、生活保護への対応に切り替えるなどの対応を取った経緯があります。

(出席者) 電気代やガス代、物価も上がっていますね。

(施設職員) 法人全体でもコストが上がっています。コロナ禍の影響や、ウクライナ関連による影響が要因ですが、令和 5 年度に向けてさらにコストがかかる事が予想されます。市からの補助はありますが厳しい状況ですので、食費や居住費の見直しについては検討課題となっています。

(出席者) 施設入居を希望される方について、中々入れない状況にあるともいますが、そのような相談をした場合、市外の施設を紹介していただけることもあるのですか・

(出席者) 上越市だと糸魚川市よりも施設の数も多いですし、入りやすい状況ではあると思います。特養であれば空きベッドもあるようです。市外の施設を利用しながら、市内の空きベッド待ちをされている方もいらっしゃいますが、介護度によって利用できる施設も違いますから、有料老人ホームや介護付き高齢者住宅ではコストが高く、一刻も早くベッドの空きを待っている状況の方もいらっしゃると思います。

(出席者) もう少し、在宅介護への支援をお願いしたいです。医療機関の医師たちも退院にあたって、自宅では大変でしょうから施設を勧められたこともあったのですが、自分は出来るまで自宅に対応する事を伝えて、自宅で頑張ってみてきたのですが、やはり、不満や葛藤はあました。こういったケースにもう少し支援の手があればいいのにと感じる事も多々ありました。現状で困っているのが、これまで利用していた訪問看護の対象が高齢者から障碍者になって今後対応できないとの話がありました。訪問看護だけのことであれば、他のところの検討もできるのですが、そこには救急時に、自分が対応できない際に対応を行ってくれる契約も併せて行っているの、親類に対応を頼れる場所がない現状で不安に感じている。新しい訪問看護が同じような対応の契約をしてくれるかどうか相談している段階。施設に入っていれば、こういう心配が無く、自分の生活にも縛りも無いと思う。現状ではそういった縛りのある生活がしんどく感じる場合があります。在宅サービスでも契約外のことであるかもしれないが、多少の融通はきかせてくれてもいいのになどと、考えてしまうこともあります。

(出席者) 認知症の介護も生活の一部だと思えば、何とか過ごそうと思えば過ごせるのですが、認知症の対応が大変な時期にもう少し手厚いサポートがあって、家族の気持ちが落ちないような支援がほしい。そこから本人の介護度が進んで、寝たきりなどの少し目を離しても自宅で介護できるような状態になれば、再度、自宅で介護していこうと思えるような、いろいろな支援が在宅のケアにあって、少しでも低コストで利用できればありがたいと思う。

今、みなさんは在宅＝家族の介護だと思っているから、家族に頑張れ頑張れで、在宅介護の支援が手薄に感じる。それではやっていられないので、もう少し何とかしてほしいとは思っています。

(出席者) 本当にその通りで、それができればたくさんの方々が助かると思います。しかし、現状では人手不足で、施設の職員さんも人員の確保で大変な状況だと思います。

(施設職員) 在宅で大変な状況で、施設入居に繋がった方でも、入居後に状態が変わって、在宅でも支援できる印象の方もこれまでの中でいらっしゃいましたが、在宅復帰につながったケースはありませんでした。ご家族も介護が無い生活に慣れてしまうため、「再度」という気持ちにはなれないこともあるかもしれません。

(出席者) 地域の皆さんが周知して、心配していた徘徊ケースに関してのケース会議に、民生委員として関わったことがあるのですが、結果としてそれを公にすることに家族の同意が得られなくて、会議がキャンセルになったことがありました。施設への入居がなかなかできない現状で、地域の目で、みんなで見守っていきましょうという意向だったのですが、家族に拒否されてしまうと八方塞がりですよ。

(出席者) まだ認知症に対する、恥ずかしいなどの偏見が強くあるのでしょうか。

(施設職員) 行方不明の方については、顔が分からないと探しようがないですからね。顔写真の手配がすぐにできたり、周知しておくことは必要ですよ。

(出席者) 近所の方の協力は大切ですよ。気にかけてもらえることで未然に防げるケースもありますよ。

(出席者) 行方不明者ではかなり離れた場所まで行ってしまっていたケースもありましたし、早期に発見できるよう、そういった方々を担当されているケアマネジャーさんたちには、早い段階で一人歩きの登録をしてもらえようをお願いしたり、検討会の機会のお話をしたりしています。また、糸魚川市で発行している、身元確認シールの活用もお願いしています。

(出席者) 市内のある地域では、そういったリスクのある方たちのリストを顔写真付きで、ご家族の同意を得て用意しているそうです。有事の際には早期に配布して、対応できる体制ができてみたいですね。そういった地域は稀で、逆に街場では隣のお年寄りの顔も知らないといったケースもありますよ。

(出席者) 在宅で支援する上で、そういった顔の見える地域の協力体制がない難しいですよ。

(出席者) お互い様の関係性の意識がもてればいいのですがね。

(出席者) 認知症状の大変な時期を施設にサポートしてもらってから、その後、在宅に切り替えるというのもやはり難しいとは思いますが。しかし、少数の看取りのケースではありますが、このコロナ禍で、施設の面会制限で会えないほうが辛いという理由で、在宅での看取り介護に戻した方々もいらっしゃいましたね。

(施設職員) 特養で娘さんが仕事を辞められたので、自宅での介護を希望して退居となったケースはありましたね。後から聞いた話では思った以上に大変だったの事でした。そう言った場合にはショートステイなどのサービスを活用してもらえればと思います。

(出席者) 本当にショートステイの利用でよい息抜きをさせてもらっていますね。ありがたいと思います。

(出席者) 冠婚葬祭などの急な利用を希望した際に、空きがないケースも考えられますよね。

(施設職員) 当法人のショートステイの年間稼働率の平均が90%くらいなので、市内のショートステイを当たれば、どこかは空いていると思われれます。ショートステイでもキャンセルのケースもありますし。

(出席者) 虐待などの理由等で、緊急避難的に施設を探すケースでも、市内の1施設には空きがあって利用できている印象ですね。

(出席者) 以前、小学生とうみかわさんと、リモートでの交流を行っていましたが、それは現在も行っているのですか？

(施設職員) 今年度は行っていませんが、小学校からの要望があれば対応している交流なので、今後も相談があればこちらとしてもありがたい話なので、協力したいとは思っています。

(出席者) 現状のコロナ禍で、中学生の介護関係の職場体験がシャットアウトされてしまって、介護の現場を見たり、知る機会が減ってきています。講義形式で伝える機会はあるのですが、やはり話だけでは伝わらない面もあります。その影響からか、介護の専門学校の生徒数もかなり減ってきています。全国的にもですが…。

(施設職員) 本年度、その貴重な専門学生2名の実習を受け入れたのですが、クラスの生徒数もおっしゃる通り少ない状況でした。実習先の受け入れ先についても、コロナ禍の影響からか断られるケースもある様子で困っておられた様子です。

(出席者) 実体験が難しい状況ですしね。悪循環になっているのですね。

(出席者) 若い介護職員へのインタビューの機会があったのですが、動機として職場体験から興味を持ったケースも多く、「人と関わることが好きな人には最高の仕事です」といった回答に感極まった思い出もあります。コロナが5類になって、世の中の制限が緩和に向かった状況になれば、小中高生に介護の現場に触れる機会や、そういったインタビューの言葉を伝えてあげたいので、ぜひ協力をお願いしたいです。

(施設職員) それはもちろん、未来の介護士育成への協力はさせていただきたいです。

(施設職員) 5類になるにしても、医療と介護にシワ寄せが来ないように対応の検討が必要ですよ。今後のワクチン接種のありかたや、現状ではコロナ関係で病院へ搬送しても、返されてしまうケースが多いですね。

(出席者) 他の施設でも帰されるケースが多いですね。救急搬送でも帰されるケースもありますし、高熱が出ていても、ぐったりしていなければ施設での療養指示が出来ますね。

(施設職員) 施設の入居者の中には、体調面からワクチン接種が行えない方もいらっしゃいますし、感染当初ではなくなる方のケース報告もありましたから、施設での療養対応については心配していた面もあります。

(施設職員) 当法人の職員採用に関して、実習生からの採用のケースも多いため、育成への協力は行っていきたい思いはあります。

(出席者) 今年度、高校で認知症サポーター養成講座を行う機会があったのですが、そこで、「ヤングケアラー」についての話や、介護士という仕事は、給料面の待遇はあまりよくなく、魅力も少なく感じるかもしれないけれど、自分の家族がいつかはそういう状態になるケースも多い中で、自分がその職についてよかったと思えることもあると思う、というような内容の話を伝えてきました。あまり響かなかったかもしれませんが、やはり現実の体験というのが一番響くと思うので、ぜひ再会してほしいと思います。

(施設職員) 貴重なご意見ありがとうございました。
次回は令和5年3月27(月)を予定しています。
本日はご参加ありがとうございました。